

# 平成30年度第2回肝属保健医療圏地域医療構想調整会議 開催結果

日 時：平成31年2月25日（月）18:00～19:20

場 所：大隅地域振興局別館2階大会議室

出席者：委員20名（うち代理5名）、傍聴者：12名（委員随行者を含む）、事務局：6名

## 1 議題

### (1) 報告

- ・ 県地域医療構想調整会議（第1回）開催結果

### (2) 協議

- ① すべての有床医療機関の「2025年に向けた計画」の取扱い
- ② 1年以上の非稼働病棟の取扱い

## 2 協議結果

### (1) すべての有床医療機関の「2025年に向けた計画」の取扱い

県調整会議における議論を踏まえて協議を進めることについて了承が得られた。

### (2) 1年以上の非稼働病棟の取扱い

平成30年度第1回調整会議において御説明いただいた3医療機関及び調査に御回答いただいた9医療機関について、病棟維持の必要性があると判断され、再稼働の計画が生じた際には調整会議へ事前に報告してもらうことで合意がなされた。

## 3 主な意見等

- ・ 病床整理という言葉が使われているが、削減ありきという話ではなく、各病棟の持つ機能、どのような機能を果たしていくのかということ議論すべきところだと考えている。
- ・ 定量的基準は、国で基準を決めてもらわないと難しいのではないかと。定義をしっかりとやらないとまとまるのか心配である。
- ・ 高度急性期や急性期というくりが本当にできるのかということとおそらくできないと思う。ただ、このままやみくもにみんな急性期ということやっても、各病院、患者が少なくなっていくので、自分たちである程度の基準を決めて、病院機能を整理してほしいということだと思う。
- ・ 非稼働病棟については、後継者の問題がある。医療機関の買い取りということもあるので、ベッドがあると買うという若い先生もいるかもしれない。すると維持が必要だろうという判断もあると思う。

### (その他)

- ・ 県立病院について、現時点での県の考えでは存続させる方向である。休床があるが、病床機能報告は病棟単位なので表に出ていない。一番困るのは医師の確保である。大学病院の派遣に依存しているので、大学病院の医局員が減ったときに、診療科が引き上げるということが現実的にある。そこをなるべく維持していきたいと思う。
- ・ 調整会議の前提として公立病院があまり無理して頑張ることで民間の医療機関を圧迫するようなことは望ましくないといった方向性があるのではないかと。そうはいつでも県病院にも職員もおり、経営も大事であるなかで、公的医療機関である県病院が何を担っていくべきなのか、その一方で民間は何をするのか、公的医療機関でなければ担えない部分を最終的にはいかに赤字を出さずに頑張っていけるかが、今の県立病院に与えられている課題だと思う。2025年は短い先だが、長期にわたって公的医療機関でないとできないところをいかに頑張って地域を支えるかが県病院の役割だと思う。
- ・ 民間の立場からすれば県立病院は少くらしい赤字を出してもいいのではないかと、民間ができない部分をやってほしいが、民間と公的病院が両立できればと思う。県立病院は、肝属地区だけでなく大隅地域全体の基幹病院としての機能を果たしてほしいところなので周囲で支えていくしかないと思う。
- ・ 他の圏域でされているように、医療機能別や疾患別の専門部会などを細かく作って密なやりとりを今後やっていきたい。できればこのような機会をもっと増やしてほしい。